

問い合わせ先

海上保安庁警備救難部

救難課課長補佐 柳田誠治

電話 03-3591-6361 (内線 5901)

第三管区海上保安本部警備救難部

救難課長 増田克樹

電話 045-211-1118 (内線 3250)

平成18年2月28日

海上保安庁

第三管区海上保安本部

大型客船火災消火及び人命救助訓練の実施について

平成18年3月14日(火)、東京湾羽田沖海域において、大型客船「ふじ丸」(23,235総トン)の協力を得て、関係機関が連携した火災消火及び人命救助訓練を実施します。

1 目的

平成18年2月3日、紅海を航行中のパナマ船籍貨客船船内において火災が発生し、その後転覆沈没し、多数の犠牲者を出すという大惨事が発生した。同種事故発生時には、海上保安庁、消防機関、船社及び当該船舶がお互いに連携して迅速的確な火災消火活動及び人命救助活動を円滑に実施する必要がある。

本訓練は、万が一に備え、大型客船に火災事故が発生した場合を想定し、実際に即した訓練を実施することにより官民一体となった危機管理体制の充実強化を図ることを目的とする。

2 実施日時・場所

日時 平成18年3月14日(火) 1330～1500 (予備日なし)

場所 東京湾羽田沖海域 (別図のとおり)

3 参加機関及び勢力(予定)

東京消防庁 (消防艇1隻、ヘリコプター1機)

川崎市消防局 (消防艇1隻)

第三管区海上保安本部 (巡視船艇7隻、ヘリコプター1機)

日本チャータークルーズ株式会社 (大型客船「ふじ丸」)

4 訓練項目

～東京湾航行中における火災発生を想定～

- (1) 「ふじ丸」乗組員による初期消火訓練
- (2) 「ふじ丸」乗組員による防火部署訓練
- (3) 「ふじ丸」乗組員による総員退船部署訓練
- (4) 行方不明者搜索訓練 (船内搜索)

- (5) 派遣消火班による消火訓練
- (6) ヘリコプターによる負傷者の吊上げ救助訓練
- (7) 海中転落者救助訓練
- (8) 「ふじ丸」乗組員、乗客の巡視艇への移乗、搬送訓練
- (9) 消防船等による放水消火訓練

5 訓練の流れ

別添のとおり

6 取材

取材の希望調査につきましては、別途ご案内いたします。

7 その他

海難等の緊急事態の発生、荒天等により、訓練の一部又は全部を中止することがあります。

訓練実施海域

別図



大型客船火災消火及び人命救助訓練概要

<p>1330～1340 想定1 大型客船「ふじ丸」は外洋クルーズを終え東京港向け航行中、客室から火災が発生。</p>	<p>具体的対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじ丸からの無線通報及び当庁から東京消防庁へ情報提供。 ・ふじ丸から船社へ事故速報。 ・ふじ丸乗組員による初期消火活動。
<p>1340～1410 想定2 乗組員による初期消火では鎮火せず。</p>	<p>具体的対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじ丸船長は、初期消火で鎮火せずの報告を受け、防火部署発動。 ・ふじ丸乗組員は、防火衣を着装し船内消火栓を使用しデッキ上から舷外に放水。 ・乗客の避難誘導開始。

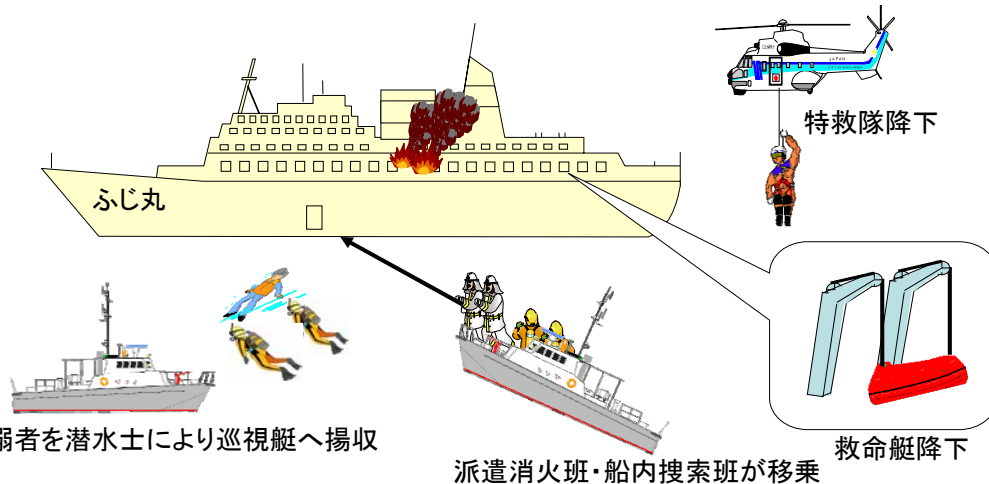
1350~1420

想定3

乗組員により乗客の避難誘導をしたところ、乗客6名が行方不明。火勢は衰えていない。行方不明となっていた乗客1名がパニックを起こし、開放されていたサイドポートから海中に飛び込んだ。

具体的対応

- ・ふじ丸船長は、自船消火作業班及び船内捜索班を除き総員退船部署発動。
- ・ふじ丸乗組員により救命艇を舷側まで降下。
- ・特殊救難隊が海上保安庁ヘリコプターからスポーツデッキに降下し、船内捜索。
- ・巡視船艇の派遣消火班、船内捜索班が移乗。
- ・派遣消火班は、消火活動を開始。
- ・巡視艇に乗船中の潜水士が溺者を確保し、巡視艇へ揚収。



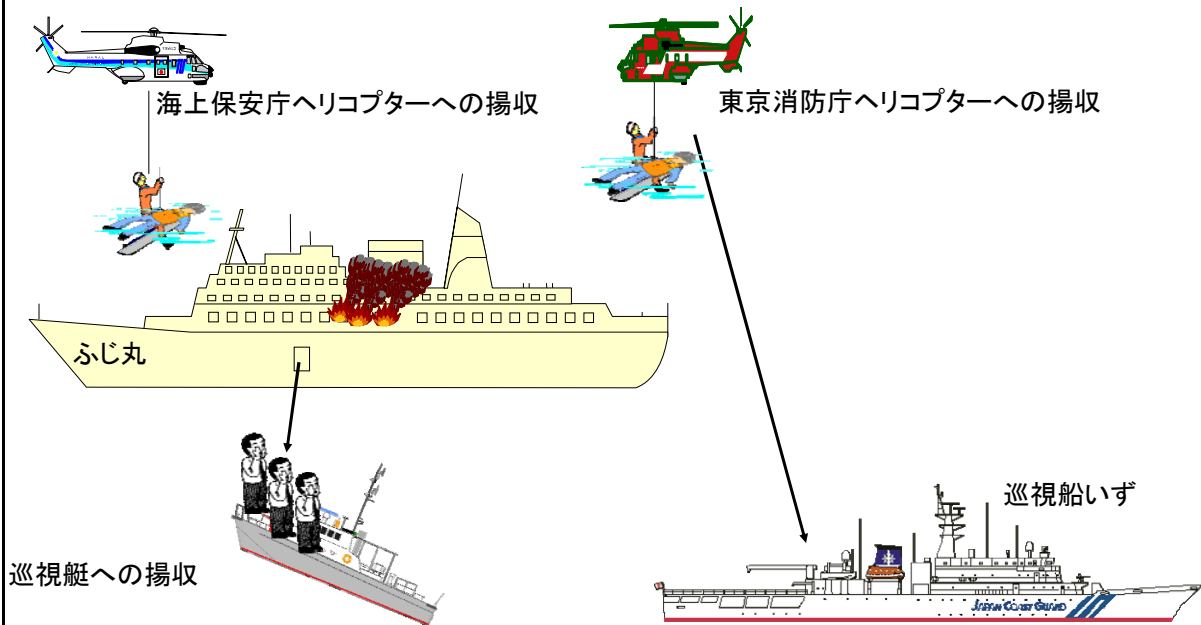
1420~1500

想定4

船内捜索の結果、5名を発見。内2名が負傷している。火勢は衰えていない。

具体的対応

- ・特殊救難隊が負傷者2名を発見し、スポーツデッキへ救出。
- ・船内捜索班が行方不明者3名(怪我なし)を発見。
- ・海上保安庁ヘリコプターが負傷者1名を吊上げ救助。
- ・東京消防庁ヘリコプターが負傷者1名を吊上げ救助し、応急手当のため巡視船に着船。
- ・巡視艇により、残る乗員乗客を救出。船内捜索班揚収。
- ・派遣消火班により密閉作業実施。



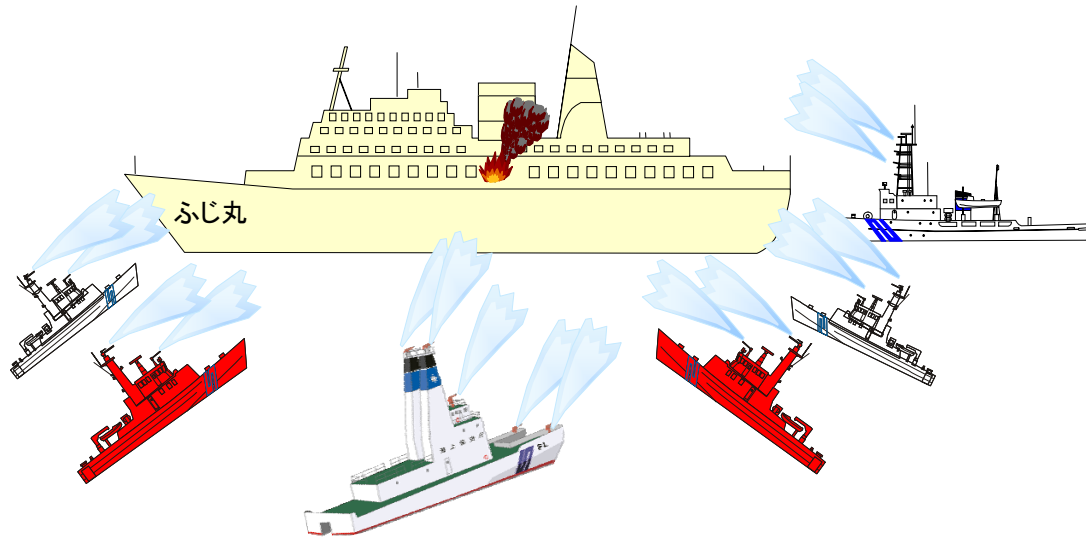
1455~1500

想定5

延焼は食い止めているが、火勢は衰えず。

具体的対応

・海上保安庁巡視船艇4隻、東京消防庁消防艇1隻、川崎市消防局消防艇1隻により一斉放水。



1500

火勢は衰えつつある。

引続き冷却放水しつつ、派遣消火班により密閉区画の温度計測を実施する。

具体的対応

・訓練終了